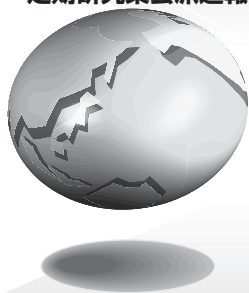


本学会と交流のある海外学会の
定期研究集会派遣報告



2018 年度 大韓放射線科学会春季学術大会 (Korean Society of Radiological Science Conference 2018)

開催場所：水原市，韓国

開催日：2018年6月9日

KSRSC 2018 に参加して

派遣員 舩田隆則 医療法人あかね会土谷総合病院

2018年6月9日に韓国の東南保健大学で、2018年度大韓放射線科学会春季学術大会(Korean Society of Radiological Science Conference 2018; KSRSC 2018)が、“Digital Talk, Radiation Talk”というテーマで開催された。KSRSは日本放射線技術学会(JSRT)と交流のある海外の学術団体であり学会協定を結んでいる。今回私はJSRTの海外派遣会員募集に応募し、英語による口述発表の機会が得られた。

KSRSC 2018はソウル市内から車で1時間半の水原市にある、東南保健大学で開催された。大会はsymposiumとsessionで構成され、演題の総数は150程度であり、参加者は約400名程度の規模であった。

私は“Usefulness of diluted contrast medium for test-scanning of infants scheduled for contrast-enhanced cardiovascular computed tomography angiography”という題名で、先天性心疾患を有する小児CT angiographyにおけるテストスキンの有用性について発表を行った。私の発表に関して二つの質問があったが、英語でのディスカッションができたことは非常に有意義であった。

KSRSC 2018は、大学病院や大規模病院からの発表者や参加者が多く、英語が堪能である人が多い印象であった。若い人の参加が目立ち、活発な質疑が行われるなど今大会の活気を感じた。特に印象深かったことは、KSRSでもJSRTと同じようにImpact Factor取得に意欲を注いでいたことだ。学会誌の紹介ならびに論文投稿の重要性が説明されていた。KSRSのモチベーションの高さと、志の高さにおいて脱帽する思い



Photo KSRSC 2018 Award 表彰式にて(右が筆者)

であった。今回、優秀発表者にAward表彰が行われたのだが、その中に私の演題が選ばれたことは非常に光栄であり、これからの研究に対しモチベーションを高めることができた。このような意識の高い学会と更なる学術交流のイベントが増えることを期待するとともに、お互いの学会に参加し、自己研鑽や協力を積み重ねていくことは、両学会の将来にとって大きな意義があるものと思う。

最後に、KSRSC 2018に参加する機会を与えていただいたJSRTの小倉明夫代表理事をはじめ国際戦略委員会の皆様、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。また、学会参加にあたり御快諾いただいた医療法人あかね会土谷総合病院のスタッフ一同に厚く御礼申し上げます。

大韓放射線科学会春季学術大会に参加して感じたこと

派遣員 清水陽一郎 九州大学大学院

この度、2018年6月9日に開催された、2018年度大韓放射線科学会春季学術大会 (Korean Society of Radiological Science Conference 2018; KSRSC 2018) に日本放射線技術学会 (JSRT) からの派遣会員として参加したので報告する。KSRSC は約 2000 人の会員で構成され、JSRT と同様に、診療放射線技師だけでなく工学系の研究者なども加入している。

私は “Evaluation of the depiction ability of similar subtraction imaging” というタイトルで発表をした。同一患者の胸部単純 X 線画像を差分する経時差分処理の有用性はよく知られている。しかし、同一患者でも胸部単純 X 線画像が 2 枚ない場合、経時差分処理を行うことはできない。そこで開発されたのが、類似した他人の胸部単純 X 線画像を用いて差分する類似差分処理である。類似差分画像の有用性に関する研究はすべて、ROC 解析などの視覚評価で行われており、客観的評価は行われていなかった。そこで本研究では類似差分画像の病変の描出能を、模擬病変を用いて経時差分画像と比較した。私が発表したセッションは international session で、韓国からの参加者も英語での発表だった。発表後には、同じく日本から派遣会員として参加した土谷総合病院の舩田先生とともに、口述賞をいただくことができた。私が賞をいただけると思っていなかったので、大変うれしく光栄な思いだった。

今回 KSRSC 2018 に参加して一番に感じたことは、スライドの英語化の重要性だった。私が発表したセッション以外のセッションでは、韓国語での発表が大部分を占めていた。韓国語をあまり理解できない私に



Photo 口述賞の賞状を授与される筆者(右)

にとって、彼らが話す内容は全くわからなかった。しかし、スライドが英語で書かれている演題では、韓国語で発表していても、大まかではあるが内容を理解することができた。JSRT 総会学術大会では、一昨年からすべての発表スライドと CyPos は英語化されており、英語での口述発表も 50% を超えている。このことは海外からの参加者にとって、とてもいいことであると改めて実感した。

最後に、今回私を派遣会員として助成をくださいました JSRT の小倉明夫代表理事をはじめ、国際戦略委員会の皆様、会員の皆様、研究の指導をしていただいている、九州大学大学院の杜下淳次教授ならびに共同研究者の皆様にご礼を申し上げます。

KSRSC 2018 参加報告

派遣員 川添優介 九州大学大学院

私は、2018年6月9日に、2018年度定期国際研究集会派遣会員として、2018年度大韓放射線科学会春季学術大会 (Korean Society of Radiological Science Conference 2018; KSRSC 2018) に出席したので報告する。

私は、司法解剖を行う前に撮像される CT 画像を用いた研究を行っている。今回の発表演題名は “Three-dimensional adjustment in positioning for post-mortem head CT images” で、口述発表を行った。臨床の頭部 CT 画像は、眼窩耳孔線 (OM line) に合わせ

て撮像されるが、死後の頭部 CT 画像は腐敗や死後硬直のため、OM line に合わせたポジショニングが困難である。このことは、autopsy imaging (AI: 死亡時画像診断) において画像の読影や比較を困難にする可能性がある。本演題は死後の頭部 CT 画像を半自動的に OM line に合わせることを目的としている。発表は、6 演題、1 時間のセッションであった。座長の先生から二つ質問をいただいた。亡くなってから遺体の CT 画像を撮像するまでどのくらい時間が経過しているのか

という質問と、研究の最終目的についての質問であった。日本では近年、AIが普及しつつあるが、韓国ではAIがほとんど行われていないということを大会の終了後に知った。しかし、広く知られていない研究内容を多くの方々に知っていただくことが今後の両学会に有益なものとなるのではないかと感じた。また、大会終了後に KSRS の会員の先生方と情報交換をする機会を設けていただき、大変貴重な経験となった。

今大会の参加を通して感じたことは、英語で自分の研究内容を伝えることの重要性である。日本語発表では伝えられる人が限られてしまうが、英語発表だと世界中の方に向けて伝えることができるため、より多くの議論を期待できる。私は国際学会での発表経験がまだまだ浅く、英語力が未熟であるため、今後は研究と並行して、英語で研究内容を伝えられる力を磨きたい。

最後に、今回の KSRSC 2018 参加にあたり、国際研究集会派遣会員として助成いただきました日本放射線



Photo 演題発表中の様子

技術学会の小倉明夫代表理事、ならびに本学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

Korean Society of Radiological Science Conference に参加して得られた体験

派遣員 坂田弥生 九州大学大学院

私は、2018年6月9日に開催された、Korean Society of Radiological Science Conference 2018 (KSRSC 2018) に日本放射線技術学会 (JSRT) から派遣していただき参加した。この学会は、1日で行われ、三つの部屋に分かれて演題発表が行われた。

私が発表したセッションは、international session で、私以外は韓国の方だったが、私を含め全員が英語で発表を行った。私は、“Evaluation of Ultrasound Strain Elastography: Comparison of Indices by Hue and NTSC luminance” というタイトルで発表した。超音波エラストグラフィの一つである strain elastography では、相対的な硬さを表すカラー画像から良悪性を視覚的に評価する診断が行われているが、評価者により変動する。そこで、硬さを定量的に評価するための新しい指標を検討した研究である。韓国では、超音波エラストグラフィはあまり普及していないようで、発表後の質疑応答のほかにも、休憩中に何人かの方から超音波エラストグラフィに関する質問をいただいた。また、私が発表したセッションでは発表後すぐに質疑応答ではなく、全員の発表が終了した後に全員が前に出て、それぞれに対する質問を聞くという形式であった。日本の学会とは違い、新鮮であった。

今回 KSRSC に参加して、非常に多くの方と研究に関する議論をさせていただいた。まず、日本人が少数



Photo KSRS の役員の方と会場にて(右から2番目が筆者)

であったため、違う施設の方とも研究について密に議論する機会があった。また、先にも述べたように、韓国の方とも研究に関する話ができ、より多くの意見交換を行うことができた。今までは、学術大会の際にはほかの施設の方と研究についてお話することができず、自分の研究に関してより深く話を聞かれたことがな

かったが、本学会で日本の方、韓国の方と、自分の研究のことだけでなくほかの方の研究についてもたくさんお話することができ、勉強になることが多くあった。改めて、学術大会は「発表」だけでなく「議論」まで含めて大事であると感じた。

更に、発表はもちろん、コミュニケーションも英語であった。自分の思っていることを英語で話すことはなかなか難しく、英語力の向上に努めようという意欲

も湧き、非常にいい体験となった。

最後に、KSRSC 2018に参加させていただき、貴重な経験を積むことができたことを、海外派遣会員に選出いただいた JSRT の小倉明夫代表理事、国際戦略委員会の皆様、本学会関係者の皆様、また日頃よりご指導いただいている九州大学の杜下淳次教授に感謝申し上げます。